



民児協こもろ

～民生児童委員は市民の皆さんに一番近い相談相手～

編集 小諸市民生児童委員協議会 広報部会



小諸市民児協・荒野会長挨拶

小諸市・滑川市
民生児童委員協議会視察研修会

介護や福祉など、何も知らないまま民生児童委員になって2年が経過し、未だに慣れないまま、11月21日（水）の滑川市民児協の皆さんとの研修会に約80名の小諸市民児協の皆さんと参加してきました。

小諸市の各地区、各区でもそれぞれの活動があり、その違いがありますが、滑川市においては更に違いがある事を実感致しました。

小諸市では、独居高齢者宅に友愛訪問として月2回乳酸菌飲料を届けながらの見守りをさせて頂いていま



滑川市民児協・砂子会長挨拶

すが、滑川市の一部地域と
思いますが、週2〜3回、
一人暮らし宅だけでなく2
人暮らしにも見回り、支え
合いを行っている。

詳細は聞けなかったが、
各委員は負担に思わず活動
しているのだろうか。と心
配ではあるが、見習わなく
てはいけなかな、と思う
反面無理かも知れないと弱
い自分の心があり、シヨン
ボリしてしまう。頑張れ！
自分！

また自治会長（小諸市で
は区長）との結びつきが強
く感じられました。支え合

いマップ、ケアネット活動
住民ニーズ調査などについ
ては、要援護者の見直し、
新規登録、支援者の変更等
は自治会長と相談しながら
登録していて、登録済みの
要援護者の情報も民生児童
委員と自治会長が共有して
いる。

滑川市民児協の皆さんの
何人かが、キャラクターの
ピンバッチを付けていたの
で聞いてみると、赤い羽根
募金のピンバッチで「キラ
リン・ピッカ」が赤い羽根
に乗っているデザイン。赤
い羽根は付けてもすぐに落
ちて紛失してしまうという
理由から考案されたようだ
す。ピンバッチのコストを
考えると、疑問もあるが個
数を確保できれば楽しい企
画だと思えます。何よりも、



キラリン・ピッカ

キャラクターが生き生きし
ていて滑川市の皆さんの意
気込みを感じました。

いずれにしても、目の前
の課題や困難にとらわれ、
振り回されて、本来の活動
がおろそかになりがちなの
分に叱咤激励かなあ。

どんな時でも平常心で取
り組み、身の丈にあった活
動で「誰もが笑顔で安全に
安心して暮らせる社会作り」
に少しでもお役に立てれば
良いと思う。

自分に出来ることを精一
杯させて頂き、1期目の任
期3年目を充実した1年に
したいと思えます。

東部地区（東雲区）

中山孝一



長岡部会長の活動報告

視察研修会に参加して

11月21日(水) 本年度の

視察研修会が、滑川市のサンアビリティーズ滑川の会場で行われました。滑川市民児協の発表では次のような活動報告がありました。寒中見舞い、日用品配布、ケアネット活動などです。

これらは小諸市には無い活動であるため、新鮮に感じると共に、その活動量から滑川市民児協さんの熱意が感じられました。

宿泊先の金太郎温泉では名湯の壁画に感動しパワーを頂きました。宴会では各地区会の余興で盛りあがり、皆さんとの交流も深まった楽しい一時でした。

翌22日(木)は、富山湾特産ホタルイカの生態を知り、神秘的で特に印象深かったです。二日間の研修から学んだ事を今後の活動に活かし、より一層安心して暮らせる地域づくりを目指して行きたいと思えます。

東南部地区民生児童委員

一期多会

私が一番心に残った 友愛訪問

初めて彼女のお宅を訪問した時、ご高齢であり凛とした方で、身の上話やお気持ちを沢山話してくださいました。「私がこの家を守らなければ」といつも話されておりました。訪問時は「待っていたよ」と笑顔で出迎えて下さいます。私も彼女にお会いできるのが楽しみになっていました。

何日かして訪問した時は、大分足腰が弱くなってきました。転倒しやすい状態を息子さんにお話ししますと、「私も一人にしておくのは心配なの



で老人ホームにお世話になるうと思う」と言われ、彼女は無言で聞いておりました。私は「安全で安心して生活できる事」と説明する彼女の気持ちが解っているだけに辛かった。彼女の口から一言「行くしかないか」と、住み慣れた家で住み続ける事の難しさを感じました。数日後、入所しましたと連絡を受けました。「これで良かったんだよね」と自問、今でも時々彼女のことを思い出します。

認知症の方の保護例

1月の夕方に、ベトナム籍の若者に連れられた高齢者が家の玄関先に立っていました。片言の日本語を推測するに、認知症の男性を保護し困っていると、通りすがりの方に民生児童委員の家を教えられたようです。警察に連絡するとすぐに来ていただき、無事にご家族の元へお帰りいただきました。安堵した後で、こんな寒い中さぞご不安だっ



たでしようと思ひながら、声をかけて助けてくれた外国人の若者の優しさに心打たれました。

次に8月の夕方、見知らぬ老婦人とすれ違いました。「こんにちは！」と声をかけると元気に「こんにちは！」と返事が返ってきました。特に気にもかけずにすれ違ふと、たまたま見えていた村の事に詳しい叔母が「あの人誰？」と聞いてきました。ふっと不安になり、すぐに追いかけると靴に赤いステッカーが貼ってありました。「失礼ですがどちらへ行かれますか」と声をかけると大変遠くの地名を言ったので「一緒に行きましょう」と誘い無事に近くの施設にお送りしました。

靴のかかたとご注目!

～高齢者見守り活動実施中～

- ★赤色ステッカーは「すぐに保護」をしてください!
- ★黄色ステッカーは「どちらへ行かれますか?」など声かけをしてください!

- ・小諸市役所 高齢福祉課
- ・小諸市地域包括支援センター
- ・小諸警察署

電話22-1700
電話26-2250
電話22-0110



黄色は声かけ!



赤色は保護!